

仮訳

(共同プレスリリース)

金融庁、韓国金融委員会及び金融監督院による日韓金融協議（第7回）の開催
及び金融監督分野の協力に関する覚書（MoC）の改定について

2023年12月20日 韓国、ソウル

1. 日韓の金融規制・監督3当局（金融庁、韓国金融委員会及び金融監督院を指す。以下、「3当局」という。）は、2023年12月19日から20日にかけて、韓国ソウルにて日韓金融協議（第7回）を開催しました。同協議の開催は、2016年6月の東京会合以来、約7年ぶりとなります。
2. 同協議の初会合は、日韓金融当局間の連携強化を目的として、2012年にソウルにて開催されました。今回の会合では、12月19日に栗田照久金融庁長官とキム・ジュヒョン金融委員会（FSC）委員長が、また、20日に栗田長官とイ・ボクヒョン金融監督院（FSS）院長が、それぞれ面談を行いました。
3. 今回の協議において、日韓3当局は、両国を取り巻くグローバル経済・金融情勢や、両国における金融行政上の重要課題について、率直かつ建設的な対話を行いました。
4. 栗田長官は、日韓金融協議の再開を歓迎し、「今回の協議が、日韓共通の機会や課題に効果的に対処していくため、3当局が一層協力していくための重要なプラットフォームとなることを期待している。サステナブルファイナンスや金融サービスのイノベーションといった分野に関し、3当局間のさらなる対話と情報交換が促進されることを期待している。」と述べました。

5. キム委員長は、10月に東京で実施した栗田長官との面会に続き、今回の日韓金融協議が開催されたことを歓迎しました。また、日本政府によるデジタル・トランスフォーメーションやスタートアップ・ビジネスを推進する政策のほか、スタートアップ企業やフィンテック企業が日本市場を注視するよう促す韓国内の動きを踏まえ、キム委員長は、2024年に日本で開催予定の韓国産業銀行による”NextRound”を含むIRイベントをFSCが関係機関とともに計画していることを示しました。

6. イ院長は、「2016年以来、3当局が7年ぶりに集い、金融協議を再開したことを大変嬉しく思います。今回の協議は、グローバルな監督上の課題に対し、3当局がより良い形で協調して対応する上で、大きな助けになると考えています。特に、金融サービス業界におけるデジタル・トランスフォーメーションやサステナブルファイナンスに関する3当局間のより積極的な協力と連携を、とても楽しみにしています。」と述べました。

7. 3当局は、19日、2014年11月に交わした金融監督分野の協力に関する覚書（MoC）の改定文書に署名を行いました。今般の改定の目的は、金融サービスにおけるイノベーションやサステナブルファイナンスといった新たに台頭する課題を含め、監督協力の範囲を広げることにあります。